

福祉のひろば ③

2017



特集

社会福祉研究問題をひも解こう！ (第21回社会福祉研究交流会合宿研究会(概要報告))

神奈川県立津久井やまゆり園殺傷事件を社会福祉問題として考える(後編)

編集 総合社会福祉研究所

住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の
立場に立って設計しています。
お気軽にご相談下さい。

京都建築事務所

〒 604-8083

京都市中京区三条柳馬場東入中之町10

代表取締役社長 川下 晃正

TEL (075) 211-7277

FAX (075) 211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>

〒601-8382

京都市南区吉祥院石原上川原町21
<http://www.creates-k.co.jp>

クリエイツかもがわ



TEL 075 (661) 5741
FAX 075 (693) 6605
送料何冊でも240円

インクルーシブな
学びの創造

障がい青年の
大学を拓く

田中良三・大竹みちよ・平子輝美
法定外見晴台学園大学◆編著
発達・知的障がい青年のために
開かれた大学づくりのもとで本
物の学びにふれ、友だちをつく
り、青春を謳歌する学生たちと、
直接、障害者に関わりがなかつた
教授陣の類いまれな授業実践！

A5判204頁+グラビア 2000円+税

障害の重い人、
関わりの難しい人への実践

行動障害が
穏やかになる
心のケア

藤本真二◆著

感覚過敏や強度のこだわり、
感情のコントロール困難など、
さまざまな生きづらさをか
かえる方たちでも心を支えれ
ば乗り越えて普通の生活が
できる——

A5判192頁 2000円+税

乳幼児期の発達基礎講座

子どものか
わいさに
出あう



近藤直子◆著

乳児から5歳児までの発
達の基礎。発達がわかれば
子どものかわいさが見
えてくる。

A5判96頁 1200円+税

ぎ ぶ けん し ら かわ む ら お ぎ ま ち 白川郷——岐阜県白川村荻町

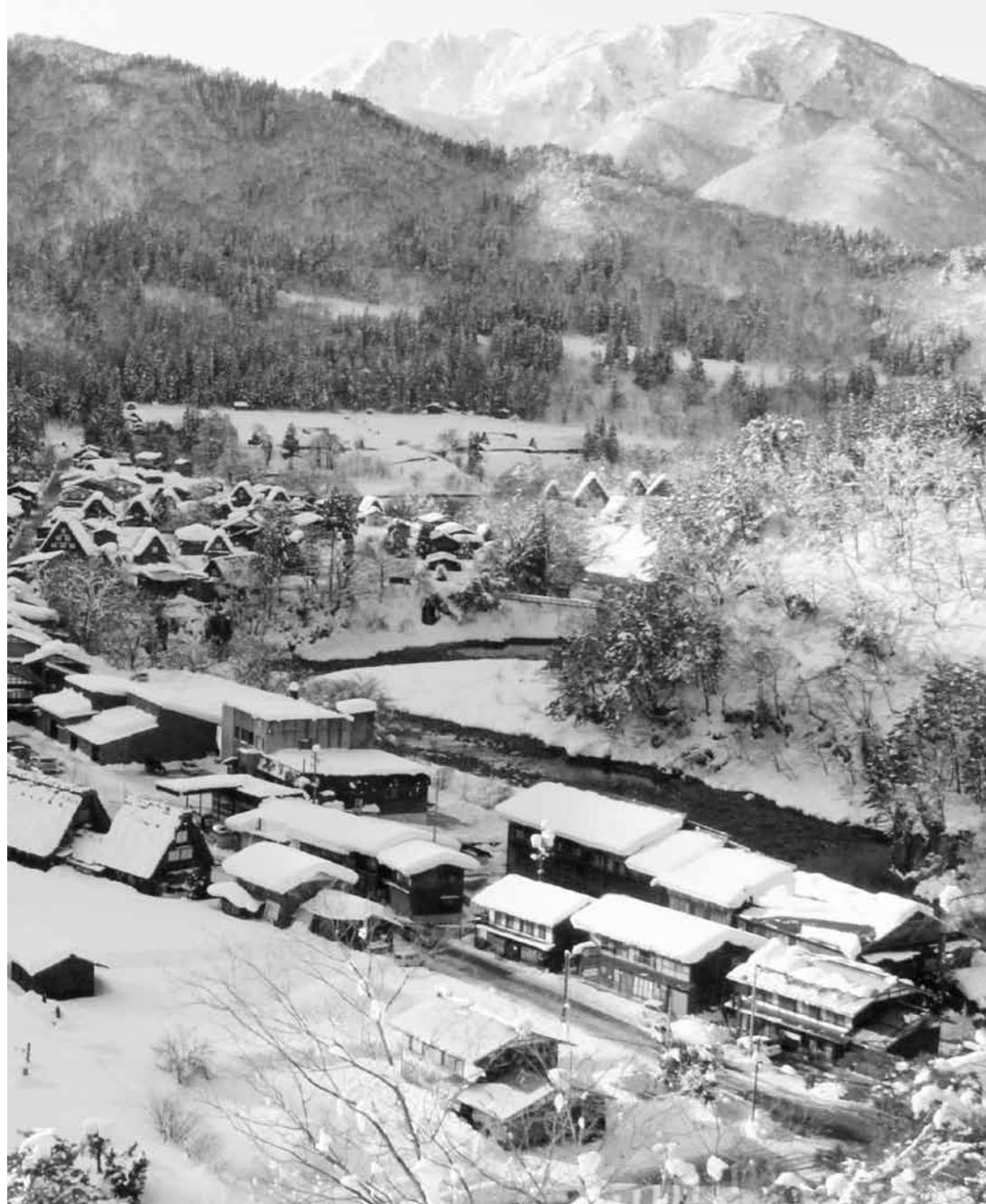
白川郷は1995年12月「白川郷・^{ご か や ま}五箇山の合掌造り集落」としてユネスコの世界遺産（世界文化遺産）へ登録。岐阜県^{し ら かわ む ら お ぎ ま ち}白川村荻町、富山県^{た い ら む ら あ い の く ら}平村相倉、同県上平村^{か み た い ら む ら す が ぬ ま}菅沼の合掌造り集落がその対象です。そして白川郷は日本国内だけではなく、世界中から注目を集めます。

「合掌造りと呼ばれる独特の家の造りは、豪雪地域という厳しい自然環境とこの地の伝統的な生活文化によって生まれました。現在も、この周囲の自然環境の調和した遺産のなかで人が生活し、独特の風景を私たちにを見せてくれます」（日本ユネスコ協会連盟のHPより）

1月半ば。台湾や中国から来た家族連れがたくさん押し寄せていました。

（写真は荻町のメイン通り）





現在の合掌造り家屋は、江戸時代中期から昭和初期まで白川村から富山県の五箇山地区にかけて建てられたものです。古い建物で築300年とされています。しかし、昭和20年代から始まった庄川流域しょうがわの電源開発によるダム建設により集落が水没するなどして次第に減少していききました。さらに、小集落の集団離村や火災による焼失もあり、合掌家屋の多くが転売され、あるいは消失しました。1924（大正13）年に約300棟あった合掌造り家屋は、1961（昭和36）年には190棟にまで激減。

こうしたなか、昭和40年代に荻町集落の地域住民が、このままでは遠からず白川村の合掌造りがなくなってしまうという危機感を抱き、集落内から保存する動きが出てきました。1971（昭和46）年には、地域内の資源を「売らない」「貸さない」「壊さない」の3原則を掲げ、「白川郷荻町集落の自然環境を守る会」を全住民の総意で発足、保存活動を展開し始めました。これらの保存活動が認められ、1976（昭和51）年に国の重要伝統的建造物保存地区に選定され、1995（平成7）年には世界遺産に登録されました（白川村ホームページより）。





雪下ろしをしている高齢者を見かけました。白川村の高齢者率は三〇%を超えています。

中国人旅行者の日本の東海地方での人気第一番が白川郷だそうです。産業別の従業員数の三三・七%が宿泊飲食業（二〇一四年）。荻町の割合はもっと高いと思われます。

一時は消滅しかけた合掌造りの集落は、いま観光に支えられてなんとか維持保存されていますが、そこで暮らしているのは高齢夫婦や高齢独居世帯です。かつてのような合掌造りに暮らす大家族は見かけません。生活様式も農村社会も大きく変容しつつあります。

（写真・コメント 下野祇園）

※関連記事が四八頁にあります。

●特集● 社会福祉研究問題をひも解こう！
 (第21回社会福祉研究交流集会合宿研究会 概要報告)

社会福祉研究の課題と方向性	石倉 康次	8
貧困研究の実相と課題	丹波 史紀	12
第二ステップの福祉産業化戦略の行き着く先	黒田 孝彦	18
社会保障の公的責任論の今日的意義 〈補足報告〉	濱畑 芳和	22
社会福祉経営の現場から公的責任を考える 〈第21回合宿研究会に参加して〉	茨木 範宏	28
社会保障からの公的責任の継続的な後退を視る	高倉 弘士	32

神奈川県立津久井やまゆり園殺傷事件を
 社会福祉問題として考える (後編)

〈座談会〉松尾悦行／岩坂正人／福岡加代子／
 青木道忠／石倉康次／黒田孝彦 36

●トピックス●

グラビアの現場から 日本三大秘境のひとつ——豪雪の「白川郷」を訪ねて	48
福祉のひろば読者会 ラッキー植松似顔絵講座	52
学んで生き生き！第10回京都社会福祉講座終了	53

●連載●

フォーラム

「学童保育士」資格者第一号の誕生に寄せて	植田 章	56
施設から子どもたちの未来をきりひらく 施設生活の変化と、次のステップへ	今崎 佑介	58
相談室の窓から G君の気になる行動	青木 道忠	62
育つ風景 トイレに行く自由、行かない自由 「助けて！」って言ってもええねんで！	清水 玲子	64
子どもの貧困の原因、親の貧困の解決を！	徳丸ゆき子	66
全盲夫婦の出会いから 二人三脚のあゆみ 二人の出会いから結婚へ (3)	千田勝夫・絹枝	68
映画案内 『ソロモンの偽証』	吉村 英夫	70
現代の貧困を訪ねて 年末年始の越冬	生田 武志	72
似らすとれーしょん道場 似顔絵まんがアート 親子を描くのじゃ！	ラッキー植松	74
ホームレスから日本を見れば	ありむら潜	76
花咲け！男やもめ	川口モトコ	77

●表紙の絵●
 神門やす子



養成校の衰退は、 社会福祉の衰退

こうがみ けいた
鴻上 圭太

今、保育、介護に関する資格のあり方が問われています。

保育士や介護福祉士の国家資格と併せて、保育分野では「子育て支援員」研修がすでにおこなわれ、介護分野では「介護入門研修（仮）」というものが検討されています。どちらも十数時間の研修で、人件費が安く済む人材をてっとり早く養成しようとするものです。また、国家資格である保育士や介護福祉士資格においても、養成校に行かなくても資格取得できる道が以前から残されています。いずれも、背景には保育・介護現場の人手不足の問題があり、それを補う人材養成のしくみです。

そもそも保育・介護分野における現場の人手不足は、賃金の問題が大きな要因の一つとして挙げられています。その賃金はそれぞれの制度に規定された補助金や報酬というかたちの事業所収入が元となっており、人手不足→てっとり早い人材養成はまさにマッチポンプな状態なのです。

家庭経済の状況に目をむけると、親の収入と子の進学先には、はつきりと差が出ています。二〇一四年度の学生支援機構調査によると、四年制大学と短期大学に子を通わせている家庭の年収を比較すると、二〇〇万円程度の差があります。また、短期大学に子を通わせている家庭のうち、年収が五〇〇万円以下は三七%にもなりません。二〇〇万円以下も一〇%弱입니다。奨学金の「給付型」はごくわずかで、「貸与型」や学資ローンが中心です。「貸与型」は卒業後返還しなければなりません。このような状況によって、特に介護福祉士養成校で学ぶ学生が激減しています。



こうがみ けいた

大阪健康福祉短期大学介護福祉学科教諭。

著書（共著）『未来につなぐ療育・介護労働』（クリエイツかもがわ・2014年）

私は介護福祉士をめざす学生とともに日々奮闘しています。学生は、介護についての学問をしっかりと学び、介護現場で自分の力を活かしたいと考えていて、学習に真摯に向き合っている姿が見てとれます。しかし、学費のこと、毎日の生活費のことはままならず、多くの学生が放課後及び土日にアルバイトをしています。夜遅い時間帯になるほど時給が上がりますので、学生はついつい長時間の勤務に入り、しばしば授業に影響が出てしまうときがあります。また、教室外のフィールドワークやボランティア活動は、二年間の学修において学びを支える大変貴重な体験であるため、教育プログラムに積極的に取り入れています。それも実施がむずかしいときがあります。

それでも二年間、養成校で学ぶ意義は大きいのです。それは保育や介護などの社会福祉実践で求められる専門性が非常に高いからです。学校ではクラスメイトがいて共に学び合えます。一人では理解が困難なこと、どう解釈すればよいのかわからなかったことも、クラスメイトと議論を交わし共に学ぶことでそれができるようになります。また、クラスメイトや教職員、養成校OB、フィールドワークやボランティアを通じたさまざまな人との出会いは、新たな知見や価値観、物事の見方の発見につながります。それらが、これから出会う介護を必要とする方の内面の動きに気づき、確かな支援とソーシャルワーク実践の力になっていくのです。これらがまさに養成校で学ぶ意義なのです。

社会福祉に関する資格養成校の衰退は、社会福祉の衰退につながっていく問題なのです。

特集

第二一回社会福祉研究交流集会合宿研究会

社会福祉研究の課題と方向性

—承認とケアの倫理にもふれて—

石倉 康次（総合社会福祉研究所理事長）

総合社会福祉研究所では、社会福祉研究の課題や方向性に関する「合宿研究会」を、毎年この時期に開催し、夏の研究集会の企画に生かしてきました。今回は三つのテーマを設定しました。「貧困問題研究の実相と課題」（丹波史紀さん）、「第二ステップの福祉産業化の行き着く先」（黒田孝彦さん）、そして「社会保障の公的責任論の今日的意義」（濱畑芳和さん）です。さらに「養成学校定員充足率の実態」を鴻上さん、「公的福祉論と社会福祉法人制度の見直し問題」を茨木さんに補足報告をお願いしました。ひろばでは概要報告にとどめ、研究紀要で全容を紹介します（研究紀要は電子書籍で無償閲覧することができます）。

私からは、まず社会福祉研究を考えるうえで、「今、私たちがどついう地点に立っているのかを示すポイント」として四点を指摘し、討論を深めていただきたいと思います。

◆国家は、誰のために、何をするのか

まず第一は、国家の役割や国家主権が再構築の転換点に入ってきているということです。フランスの社会学者エマニュエル・トッドは、戦後、一九五〇～八〇年の高度成長期、一九八〇～二〇一〇年の経済的グローバル化の時期を経て、今、第三

の局面に入ってきている、と指摘しています。アメリカでは、不平等の拡大、支配的な白人グループにおける死亡率の上昇、社会不安の一般化などの結果、内政重視の揺り戻しが始まっており、それを象徴しているのがドナルド・トランプやバーニー・サンダースのような大統領候補の登場。「EU離脱」